

住民意識からみる屋外空間整備の課題と提案

-坂道の城下町における屋外空間の整備方針の検討に関する研究(その2)-

正会員 ○中島 範子* 同 姫野 由香**
同 室 宏* 同 佐藤 誠治***城下町地区 空間要素
ワークショップ KJ法

1 研究の背景と目的

前稿(その1)では、居住者アンケート調査と来街者ヒアリング調査より得られた結果をもとに、地区住民の居住環境評価と来街者の利用評価を把握した。本稿(その2)では、居住者自身が地区の現状を把握した上で、その課題を議論し、整理するために、全2回の住民ワークショップを開催した。住民ワークショップより抽出された意見は要素ごとに分類し、地区の屋外空間の整備の上での課題を整理する。さらに、抽出された提案がどのような課題から派生し、得られたかを分析することで、今後地区においてどのような課題をどのような提案で解決すべきか、また早急に解決すべき課題を明らかにする。以上により、対象地区の屋外整備方針を検討するための知見を得ることを目的とする。

2 研究の方法

地区の居住者自身が地区の現状を把握し、共有した上で、地区の課題を整理するために、全2回の住民ワークショップを開催した。共有情報とし、ワークショップでは居住環境アンケート調査及び来街者ヒアリング調査の結果の一部を提供した。第1回目のワークショップでは地区の課題の抽出を目的とし、地区の現状や利用実態を理解し、居住者が地区に居住する上での地区のよさや課題についての検討をした。第2回目のワークショップでは地区の課題解決のための提案の抽出を目的とし、第1回目のワークショップにより抽出された課題に加えて、来街者の視点を意識し提案することで、居住者自身のできることを検討した。全2回の住民ワークショップより抽出

された意見の関係性は、KJ法を用いて整理し、その結果、対象地区の今後のまちづくり方針を検討する上で重要な視点を示す。

3 住民意識からみる屋外空間整備の課題と提案

全2回の住民ワークショップにより抽出されたすべての意見をKJ法により分類し、地区の屋外空間の整備の上での課題を整理した(図1)。意見は大きく7項目に分けることができる。最も意見が多い項目は「施設立地・施設整備」に関する意見で49件、最も少ないのは「自然」で4件となっている。良いところは「景観・まちなみ」に関する意見が20件と最も多く抽出され、「交通・アクセス」に関する意見は2件と最も少なかった。ただし、多くの良いところは提案に結びつきにくく、「景観・まちなみ」の提案は6件と少ない。課題は「施設立地・施設整備」や「商い・イベント」に関する意見がそれぞれ23件、17件と多く、「自然」に関する意見は出されなかった。さらにこれらの項目の提案についてみると、それぞれ17件、14件と多いことがわかる。これらより、課題が多く言及された「施設立地・施設整備」や「商い・イベント」に関する意見は提案に結びつきやすいと考えられる。提案は、「施設立地・施設整備」に関する意見が17件と最も多く抽出され、「交通・アクセス」に関する意見は抽出されなかった。

要素が重なり合った部分については、「施設立地・施設整備」と「商い・イベント」、「施設立地・施設整備」と「わかりやすさ」にみられる。空き家・空き地・空き店舗といった課題解決のための提案に関して、これら課題を活用した気軽に売ることができる場所といった「施設立地・施設整備」と「商い・イベント」の要素を跨いだ対応策が考えられる。また、お寺が集中して立地する「施設立地・施設整備」と「わかりやすさ」に関する良さについて、要素を跨いだ良さがあるにもかかわらず、そのお寺がアピールできていないという課題も言及されている。このような重なる部分は、地区の中でも特に課題が顕在化している部分であるともいえる。これらに対応する提案を如何に実行するかが重要であるといえる。

また、全2回のワークショップより抽出された意見とワーキングに用いた地図をもとに、杵

表1 住民ワークショップの概要

	第1回	第2回	
実施日	2013/11/28(木)	2014/01/16(木)	
実施時間	19:00~21:00	19:00~21:00	
住民参加者	11名	11名	
学生参加者	8名	7名	
グループ数	3グループ	3グループ	
共有事項	町並みや建物について	お気に入りの場所 改善した方がよい場所	前回のおさらい
	住民の皆様の暮らしについて	城下町の商店の利用状況 城下町地区全体の利用状況	来街者の利用状況について 観光客の利用施設 観光客の利用経路 観光客の満足度 来街者の利用満足評価 居住者との比較
			第1回住民ワークショップのまとめ
住民ワークショップ作業内容	居住者視点からみるまちのよいところ課題の抽出	来街者視点を意識したまちのよいところ課題の抽出	
	抽出された意見から重点ポイント(イチ押し)を決定	まちの課題解決に向けた提案の作成	
	全体でイチ押しの発表と共有	提案から自分たちでできることを選択	
		提案内容の発表と自分たちでできることの共有	

築市城下町地区まちづくりの課題と方針について地図にまとめた(図2)。

4 総括

本稿では、住民ワークショップより抽出された意見を

要素ごとに分類し、地区の屋外空間の整備の上での課題を整理した。さらに、抽出された提案がどのような課題から派生し、得られたかを把握することで、今後地区においてどのような課題をどのような提案で解決すべきか、

また早急に解決すべき課題を明らかにした。

「空き家・空き地」が課題として上がったが、「空き家・空き地」の活用において、どこで何をやるかという具体的なアクションプランも必要となる。利用者の視点を考慮し、地区の特性に合わせた整備が求められるといえる。また、「施設立地・施設整備」と「商い・イベント」の重なる要素は多くの課題も抽出されている。このことから、重なり意見は早急な対策が必要な要素であるといえる。今後は、さらなる地区の特性を建物状況(用途, 意匠, 建築年等)といったハード面からも分析し、今回明らかになった地区の良さを生かしつつ、空き地や空き家を利用した、具体的なアクションプランを作成する必要があるといえる。

【参考文献】

- 志村秀明, 増尾孝祐, 佐藤滋「地方中心城市におけるまちづくり協定の実態と役割-中心市街地再生のための協働型まちづくりの手法に関する研究-」日本建築学会計画系論文集 No560, pp221-228, 2002
- 大野拓也, 伊丹康二「千里ニュータウンにおける地域施設の利用実態と評価意識からみた地域施設整備の方向性-高齢社会に対応した地域施設の整備に関する研究-」日本建築学会計画系論文集 No592, pp57-64, 2005
- 川上光彦, 山下泰士, 黒井秀信, 西野達也「歴史的密集市街地における町並み保全を考慮した居住環境整備計画に関する研究-金沢市における事例研究-」日本建築学会計画系論文集 No673, pp573-582, 2012

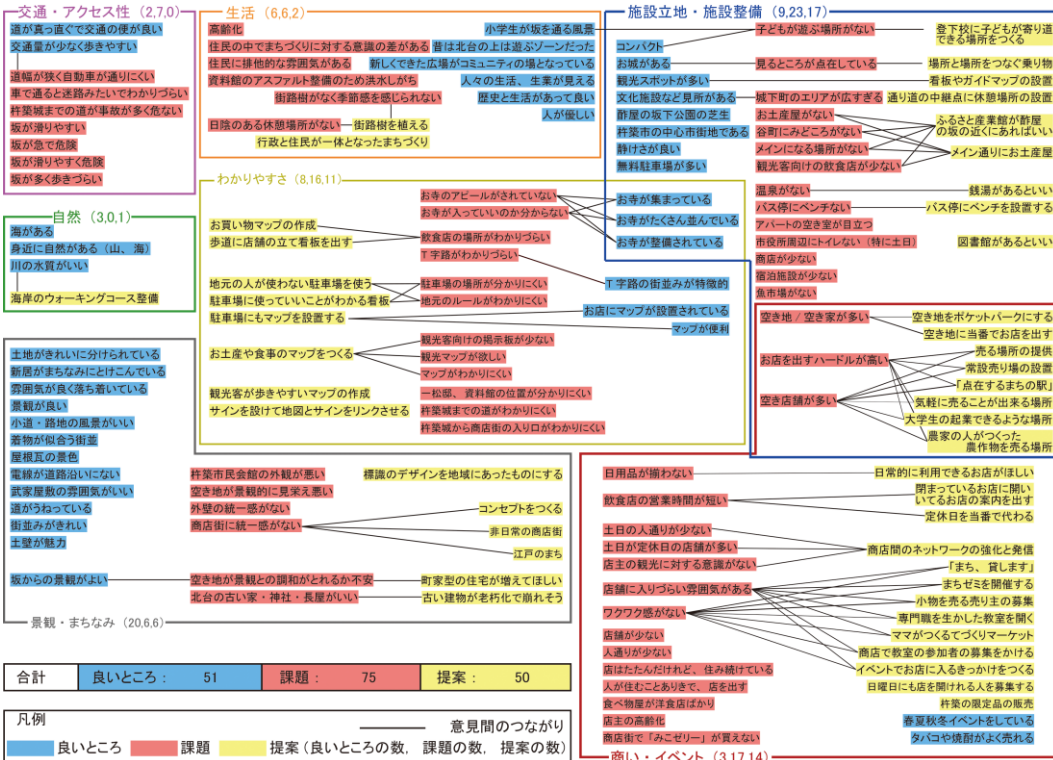


図1 抽出された意見間のつながりダイアグラム

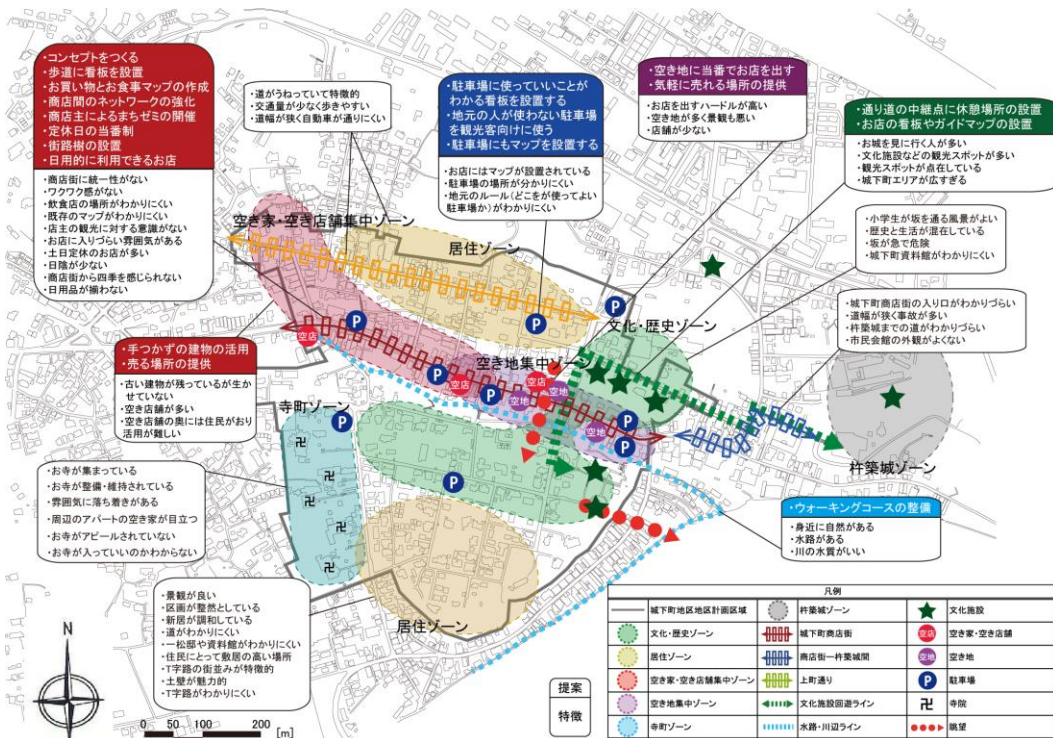


図2 築市城下町地区まちづくりの課題と方針(第1回, 2回ワークショップのまとめ)

* 大分大学大学院工学研究科博士前期課程 Graduate Student, Oita Univ.
 ** 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学) Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng
 *** 大分大学 名誉教授・工学博士 Prof. Emeritus, Oita Univ., Dr.Eng